

## TOPICS

## 1

## 部署を越えて、新しい挑戦を！「知」から新しい価値を創出するナレッジワーカーを育てる「ジョブシェア制度」始動

岡山大学長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現のため、J-PEAKS事業を通じて、知識を活かし新しい価値を創造するナレッジワーカーの育成に取り組んでいます。今回は、2025年8月にスタートしたジョブシェア(学内兼業)制度についてご紹介します。

## 第一弾は国際舞台！国際イベントで新しい一歩

初回となるジョブシェア制度では、国際部門以外の部署から選抜された事務職員がラオス・カンボジア・タイに渡り、日本留学を希望する学生へ本学の取組を紹介、国内外機関との交流を実施しました。異なる部署の職員が協働し、留学生のニーズや海外の教育機関・国内外の大学の取り組みを知り、現地の活気ある状況を体感したことは、キャリア形成のみならず、大学経営に携わるうえでの俯瞰的な視点、必要能力等を改めて見つめ直す、貴重な機会となりました。



ラオス

カンボジア

タイ



## ○ジョブシェア制度とは？

ジョブシェア制度は、若手職員の声から生まれた、職員が所属部署の枠を越えて、さまざまな業務に挑戦できる仕組みです。中長期型と短期型の2タイプを用意し、幅広い経験を通じて大学全体で「知」から新しい価値を創出することのできるナレッジワーカーを育成します。

## ○メリットは？

- ・募集プロジェクトに自ら応募し、普段の業務では関わらない仕事にチャレンジできます。
- ・キャリアの幅が広がる多様な経験を積むことで、職員の可能性を広げるチャンスになります。
- ・組織にもプラス。多様なスキルを持つ人材を育成・活用でき、組織全体の力が高まります。
- ・新しい価値を生み出す部署を越えた協働で、これまでにないアイデアや取り組みが生まれます。

# ジョブシェア制度

(学内兼業)

部署を越えて多様な業務に挑戦



2025年に始動したジョブシェア制度は、岡山大学J-PEAKSが掲げる「知」によって社会を変革する、新しい価値を創出するナレッジワーカーの育成という点を具現化する新たな仕組みです。本制度は、若手職員の成長を後押しするために設計され、8月の募集開始からわずか4か月で6件の事業が具体的に企画される成果を挙げています。

応募者からは『こうした制度を待っていました』という期待の声が寄せられ、制度を活用した新しいアイデアが次々と生まれています。このスピード感と創造性は、ジョブシェア制度が単なる人事施策にとどまらず、組織に新しい価値を生み出す原動力となっていることを示しています。

キャリア形成に必要な知識や経験を補い、未知の分野への挑戦意欲を育み、成長の機会を創出することで、岡山大学は組織全体に革新の風土を築き、次代を担う人材育成の新たなモデルを提示しています。



ジョブシェア制度を活用し、先輩職員として就職活動中の学生に向けた広報業務に取り組む様子

## ○那須保友学長のコメント

岡山大学J-PEAKS事業では、既成概念にとらわれない革新的な人事戦略を通じて、知によって社会を変革する、新しい価値を創出するナレッジワーカーの育成・輩出を推進しています。私たちは、従来の教員中心の大学法人経営から脱却し、事務職員・技術職員の高位登用や高度専門職の育成など、多様な人材が活躍できる新たな仕組みづくりを進めています。

今回、大学職員の「高度化」を実現する第一のステップとして、新たな取り組みであるジョブシェア制度を導入しました。本制度は、若手職員の『より深く学びたい』『自己成長を遂げたい』という強い意欲を形にし、幅広い経験を積む機会を提供するものです。本学は、次代を担うリーダーとして、多様な視野と高度な専門性を兼ね備えた人材の育成に挑戦し続けます。

岡山大学の新しい人材戦略の展開に、ぜひご期待ください。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id14730.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14730.html)

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id14886.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14886.html)



現地で深める国際感覚



岡山大学

OKAYAMA UNIVERSITY



J-PEAKS

## TOPICS

## 2

## 岡山大学長期ビジョン2050の実現を目指す覚悟を新たに「令和8年年始式」を開催

令和8年年始式を対面およびオンライン配信のハイブリッド形式で実施し、役員・部局長をはじめ、約420人の教職員が参加しました。

那須保友学長は、「不易流行」、「J-PEAKS」、「2050年」を重要な視点として掲げ、将来を見据えた大学運営を進めていく考えを示しました。そのうえで、昨年発表した「岡山大学研究大学宣言」に触れ、研究を大学の中心に据え、教育と研究を両輪として進める姿勢を改めて強調しました。

社会に対して本学が研究大学として発展していくことを約束したこの宣言のもと、全学で取り組みを加速させます。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id14977.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14977.html)



## TOPICS

## 3

## 光合成の主役はヒーローだった？「光合戦隊ヒカレンジャー」が表紙を飾る国際特集号を発行

本学の坂本亘教授と沈建仁教授がGuest Editorを務めた、光合成に関する国際特集号が、学術誌 *Plant and Cell Physiology* において発行されました。

本特集号は、光エネルギー変換反応の基礎、分子機構、制御、進化、さらには農業や人工光合成への応用までを幅広く扱っており、光合成を担うタンパク質複合体をヒーローに見立てた独創的な表紙を通じて、光合成研究が地球環境と持続可能な社会を支える重要な科学であることを視覚的にも発信しています。

光合成の基礎研究とその先にある人工光合成をJ-PEAKSにおける研究力強化の要のひとつとして実施しています。私たちの生活を一変する社会変革を実現します。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id1485.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1485.html)



## TOPICS

## 4

## 富樫庸介教授(医)が「第22回(令和7年度)日本学士院学術奨励賞」を受賞

本学学術研究院医歯薬学域(医)の富樫庸介教授が、ミトコンドリア伝播による新たながん免疫逃避機構の解明により「第22回(令和7年度)日本学士院学術奨励賞」を受賞しました。日本学士院学術奨励賞は、若手研究者を顕彰して今後の一層の研究を奨励することを目的とし、すぐれた研究成果をあげた若手研究者のうち、今後の活躍が特に期待される者に対し、授与されます。

J-PEAKS事業では、富樫教授ら若手研究者を「個人」ではなく「群」「層」として全学的な支援を実施し、社会変革を成す研究・イノベーションの強化促進を行っています。引き続き、富樫教授ら若手研究者の活動にご期待ください。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id14970.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14970.html)



TOPICS  
5二次元半導体の成長過程のリアルタイム観測に成功  
～次世代半導体材料の高品質化に期待～

本学大学院環境生命自然科学研究科博士前期課程2年の千田祐太郎大学院生と学術研究院環境生命自然科学学域(工)の鈴木弘朗研究准教授、林靖彦教授らのグループは、原子レベルに薄い二次元半導体材料である遷移金属ダイカルコゲナイドのマイクロリアクタ内部におけるVLS成長のリアルタイム観測と成長モードの解析に成功しました。

J-PEAKSの取り組みの中でも卓越研究の成果から地球規模の課題解決、地球外の活動も視野に入れた新技術開発を実現させます。



参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id1482.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1482.html)

TOPICS  
6最先端の研究機器等を「買う」から「借りる」に転換する  
SXプラットフォーム～オンライン説明会とホームページを開設～

SX Platform			
SXプラットフォームがもたらす効果			
<b>研究時間の確保</b> 常に最新の研究機器を利用することが可能に。研究の質とスピードを加速させます。 メーカーがメンテナンスを行うため、管理・運用する人材が軽減に。また研究者の負担軽減につながります。	<b>研究環境の強化</b> フルサポート保守でダウンタイムを最小限に抑え、高い稼働率を維持します。 また、常に最新の研究機器を利用することが可能に。研究の質とスピードを加速させます。	<b>人材育成の促進</b> メーカー保守時のレクチャーや、最新機器の設置・立ち上げ時の講習会といった学びの機会を提供します。	<b>必要経費の削減</b> 設置費・保守費・修理費・撤去費が不要に。 研究に不慣れな学生が機器を取り扱う場合など、故障のリスクが高い環境でも、修理費を確保する必要がなくなります。

研究機器のレンタル・リースプラットフォーム「Shared Transformation (SX) プラットフォーム」の日本電子株式会社主催のオンライン説明会を開催しました。またSXプラットフォームのホームページを開設しました。

SXプラットフォームは、従来の「買う」から「借りる」へ選択肢を拡大し、組織と研究者の研究環境の改善のみならず、技術職員らのスキル向上等にも大いに役立ちます。

さらには4経費(設置費、修理費、保守費、撤去費)不要など、これまでにない“お得”なものです。今後もわが国の研究基盤・環境を変革する取組を積極的に実施します。SXプラットフォームへのご参加もお待ちしています！(本年度は年会費30万円が無料)

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id15047.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15047.html)

TOPICS  
7

## 異分野融合と拠点形成を志向した「微生物エクスペローラーズ」第8回ミーティングを開催

異分野融合と研究拠点形成を目指して発足した研究グループ「微生物エクスペローラーズ」の第8回ミーティングを開催。教員、URA、企業関係者ら24人が参加しました。

今回は、長岡技術科学大学の小笠原教授らをお迎えし、講演と意見交換を実施しました。微生物分野をキーワードとした両大学間の研究連携を今後さらに深化させる重要な機会となりました。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id14928.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14928.html)



TOPICS

8

## 岡山大学総合技術部と北海道大学技術連携統括本部と意見交換および施設見学を実施～スキルに見える化をリサーチ～

本学総合技術部は、北海道大学を訪問し技術連携統括本部との意見交換ならびに総合研究基盤連携センターの施設見学を行いました。

今回の訪問で得られた知見は、本学におけるスキルに見える化の推進、技術職員組織の強化、研究基盤の高度化に向けた取り組みに生かします。今後も「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」の採択大学であり、地域と地球の未来を共創し、社会変革を実現させる研究大学：岡山大学の絶え間ない変化と挑戦と、それを担う技術職員の活動にご期待ください。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id15007.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15007.html)



TOPICS

9

## 本学職員3人を「岡山大学研究開発マネジメント人材」に認定！～研究者の研究専念環境強化・教職員の高度化を推進～

本学職員3名を、新たに「岡山大学研究開発マネジメント人材」として認定しました。研究開発マネジメント人材は、研究内容に関する深い理解と洞察を有し、大学等の組織運営に関わる研究開発マネジメント全般に携わる高度専門人材と定義しており、本制度は、本学がJ-PEAKSを活用して行う大学改革の一環のひとつです。

本学はJ-PEAKSのもと、大学の組織・制度改革を先取りして、決断・実行しています。他大学の模範となる取り組みにご期待ください。



参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id14976.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14976.html)

TOPICS

10

## 本学が米子工業高等専門学校、鳥取大学、徳島大学においてヘリウムガスの回収(フェーズ1)を開始

本学は、「中四国・播磨ヘリウムリサイクル事業ネットワーク」の連携機関である米子工業高等専門学校、鳥取大学、徳島大学を訪問し、ヘリウムガスの回収(フェーズ1)を開始。液体ヘリウムを学内外に供給することにより、液体ヘリウムを使った研究・開発の裾野を大いに広げ、我が国の研究力向上・イノベーション創出強化実現します。またヘリウムは国内で得ることができず、本取り組みは経済安全保障にも関わる重要なものです。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id14950.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14950.html)



TOPICS  
11

## 火星環境を再現可能な“惑星表層環境シミュレータ”を導入！

本学は、火星表層環境を模擬し、その場分光実験や地形形成実験、探査用機器の性能評価・耐久性試験等を可能とする「惑星表層環境シミュレータ」を高等先鋭研究院のひとつである惑星物質研究所に導入しました。

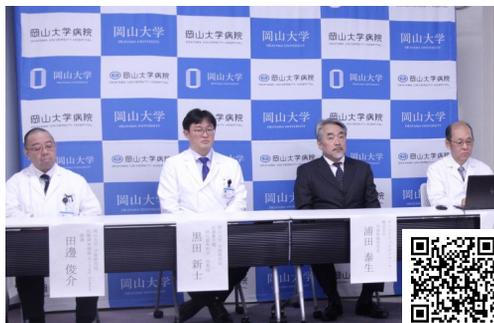
本装置は、チャンバー上部に可視～短波長赤外をカバーする広帯域の分光イメージングが可能なハイパースペクトルカメラを設置することで、詳細な測定を可能とします。これによりこれまでになかった基礎研究や機器によって、新たな研究・イノベーションの核を育成することができます。引き続き、本学の新しい挑戦にご期待ください。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id15011.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15011.html)

TOPICS  
12

## 厚生労働省に標準治療が難しい食道がんに対する腫瘍溶解ウイルス製剤「テロメライシン」の医薬品製造販売承認申請を実施

本学学術研究院医歯薬学域(医)消化器外科学分野の藤原俊義教授と黒田新士准教授らの研究グループが食道がんに対して開発を進めてきた腫瘍溶解ウイルス製剤「テロメライシン」を、岡山大学発バイオベンチャーのオンコリスバイオファーマ株式会社(以下、オンコリス社)が厚生労働省に医薬品製造販売承認申請を行いました。



本学で開発された「テロメライシン」は、アカデミアからの創業シーズが市場に出るといった社会的なインパクトだけではなく、低侵襲で優しい治療薬として食道がんの患者さんにとっても大きな福音となることが期待されます。

J-PEAKSの取り組みである次世代研究院の「次世代研究群」では、「難治・希少がんに対する再生・細胞医療・遺伝子治療拠点」を形成し新規治療製剤の研究開発を推進しています。社会変革の実現にご期待ください。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id1480.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1480.html)

TOPICS  
13

## スーパー食品売場のライブ中継による食品ロス削減の取り組み「のこり福キャンペーン2026」を実施！

本学が主体となって実施したスーパーマーケット等の食品売場のライブ中継・アプリ配信による食品ロス削減の取り組みの続編として「のこり福キャンペーン2026」を実施しています。

キャンペーン中のアプリ利用データ・POSデータ・人流データ等の分析に基づき、食品ロス削減効果を検証・報告し、有用な知見の共有・社会実装を通じてさらなる食品ロス削減に貢献することを目指します。地域の課題から新しい価値を生み出す取組を実施中です！

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id1483.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1483.html)



図1 カメラ設置の様子 図2 キャンペーン案内ページ 図3 アプリの画面イメージ



TOPICS  
14

## 国連貿易開発会議（UNCTAD）と岡山大学の共同プログラム5周年記念レセプションを国連本部で開催

本学は、国連貿易開発会議（UNCTAD）と共同で行っている「途上国からの若手女性研究者のための共同研究・研修コース」5周年を記念するレセプションを開催しました。レセプションでは、メンタリングや共同研究、知識共有を通じて次世代女性科学者の国際コミュニティ形成を支える国際ネットワークを新たに立ち上げることが発表されました。

今後も、国際的なパートナーシップの強化、科学技術・イノベーション分野における女性リーダー育成、そして包摂的で持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進します。岡山大学の国際的な研究力強化の取り組みにご期待ください。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id14921.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14921.html)

TOPICS  
15

## OU-SPRING・BOOST Winter Research Symposium 2025を開催

本学は、「OU-SPRING・BOOST Winter Research Symposium 2025」を開催しました。本シンポジウムは、岡山大学次世代研究者挑戦的研究プログラム（OU-SPRING）の認定者に対して、トランスファブルスキルや異分野融合研究能力の強化促進、人材交流等を目的として実施しているものです。



本学は大学院生を「学生」ではなく「研究者」として捉えており、一人の研究者としての矜持を持ち、アカデミアや産業界などさまざまな場で活躍できるように自らの能力を伸ばすこと、人的ネットワークを拡大することなどを重点においています。

今後も全学を挙げて、新たな研究・イノベーションを創出する研究者等の育成を戦略的に実施します。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id14959.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14959.html)

TOPICS  
16

## PMI日本支部とプロジェクトマネジメントに関する組織間連携協定を締結～わが国のアカデミア全体のプロジェクトマネジメント活性へ～

世界最大のプロジェクトマネジメント組織の日本支部である一般社団法人PMI日本支部とプロジェクトマネジメントに関する組織間連携協定を締結し、協定式を執り行いました。

本学とPMIはこれまでに人材育成等において様々な取り組みを実施しています。また国の事業等でも密に連携して取組を実施し、変革を生んでいます。

今回の本協定を通じて、さらなる連携強化を図り、今後アカデミアにおけるプロジェクトマネジメントの定着や研究開発マネジメント人材等の高度専門人材の育成及びその人材による社会への新たな価値創出などを強力に推進します。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id15027.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15027.html)



TOPICS  
17

## 植物発酵エキスがマイクロプラスチックを体外へ排除する可能性を確認

本学の高等先鋭研究院を構成する岡山大学資源植物科学研究所の杉本学准教授らのグループは、植物発酵エキスが人工胃液や人工腸液中でマイクロプラスチックと結合する事を見出し、消化管からマイクロプラスチックを排除できる可能性を明らかにしました。

植物発酵エキスが消化管からマイクロプラスチックの排除を促進し、腸から体内への吸収リスクを低減することが期待されます。

本学では「農作物・植物科学分野」を「最重点研究分野」に指定し、戦略的に研究の厚み強化等を実施しています。今後も杉本准教授らの研究活動等にご期待ください。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id1478.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1478.html)

TOPICS  
18

## 文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課長らとの意見交換等を実施

文部科学省科学技術・学術政策局の奥篤史人材政策課長らが本学を訪問し、那須学長らと科学技術人材政策について意見交換と視察を行いました。

意見交換では活発な議論が交わされ、最新の研究設備であるクライオ電子顕微鏡およびクライオプラズマFIB-SEM装置「Arctis」の視察においては、光合成における触媒と半導体触媒の違いについて質問があり、本学の研究に対する期待が示されました。

本学はJ-PEAKSを活用し、研究開発マネジメント人材（URA、事務職員、技術職員等）の高度化、研究機器の共用化などをより一層進め、新たな研究・イノベーション創出から社会を変革していきます。本学の絶え間ない挑戦とその変革にご期待ください。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id14922.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14922.html)

TOPICS  
19

## 「オープンイノベーションMatch Up vol.4～地域課題×デザイン×デジタル～」を開催

本学が事務局を務めるおかやまデジタルイノベーション創出プラットフォーム（OI-Start）と岡山県立大学が、「オープンイノベーションMatch Up vol.4～地域課題×デザイン×デジタル～」を主催し、岡山圏域だけではなく全国各地から220人以上が参加しました。

本イベントを通じて、分野や立場を越えた対話と共創の可能性が示され、今後の産学官連携や地域発のイノベーション創出に向けた第一歩となる有意義な機会となりました。地域の課題やニーズに直に触れ、ステークホルダーとの意見交換を重ねることで、新しい価値を生み出します。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id14995.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14995.html)



TOPICS  
20内山淳平研究教授と高橋賢准教授がJETRO「J-StarX  
Local to Global Success」欧州・ミュンヘンコースに採択

学術研究院医歯薬学域(医)の内山淳平研究教授と高橋賢准教授が、独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)が主催するスタートアップ海外展開支援プログラム「J-StarX」欧州・ミュンヘンコースの参加者として採択されました。

本学は、研究成果を基盤とした大学発スタートアップの創出と国際展開を通じて、世界市場を視野に入れた医療・創薬分野のイノベーション創出に取り組んでいます。両研究者の今後にご期待ください。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id14998.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14998.html)

TOPICS  
21

## ETA治療(Endoscopic Topical Application)による難治性過活動膀胱の症状改善を確認～大学発の新規治療を世界で初めて実施した症例報告～

岡山大学病院腎泌尿器科の定平卓也研究准教授と岡山大学病院新医療研究開発センターの渡部昌実教授らの研究グループは、難治性過活動膀胱に対して、膀胱三角～膀胱頸部を標的に、ボツリヌストキシンを膀胱粘膜表面へ内視鏡下で直接塗布し浸透させる新規の頻尿治療法を開発し、世界で初めて臨床応用した症例を報告しました。



J-PEAKS事業では本学の強みである医療分野を、戦略的に支援しています。今後も本学の研究活動等にご期待ください。



参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id1487.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1487.html)

TOPICS  
22

## 洋菓子メーカー株式会社サンラヴィアンとCFPを通じた企業ブランド価値向上に関する共同研究を開始

岡山県里庄町に本社を置く洋菓子メーカー株式会社サンラヴィアンと、製品のカーボンフットプリント(CFP=Carbon Footprint of Products:製品のライフサイクル全体における温室効果ガス排出量)を切り口とした企業ブランド価値向上に関する共同研究を開始しました。

本学は本共同研究を通じて、学術研究と企業実務をつなぐ産学連携の新たな形を創出し、地域企業の持続的な成長と脱炭素社会の実現に貢献していきます。地域企業の新たな価値創出を共に実現させます。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id14997.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14997.html)



TOPICS  
23

## 岡山大学シンポジウム「岡山発、森林循環経済の実現に向けて」を開催

本学は、岡山大学創立五十周年記念館金光ホールにて、一般社団法人プラチナ構想ネットワークとの共催で、公開シンポジウム「岡山発、森林循環経済の実現に向けて」を開催しました。オンラインを含め、企業関係者、自治体職員や大学生約250人が参加し、森林資源を生かした地域循環型経済の可能性について熱心な議論が交わされました。

パネルディスカッションでは、木造建築の推進、県産材の活用、林業活性化を連携して進めることの必要性を確認し、産学官金連携による「岡山モデル」構築を呼びかけました。

本学はJ-PEAKS事業において、森林資源の活用に取り組んでいます。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id14956.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14956.html)

TOPICS  
24

## 岡山大学の人事基本方針3～常勤理事の選出方法の改善について～

本学は、地域と地球の未来を共創する研究大学を目指し、組織・制度改革を加速させています。研究大学としての更なる発展を目指し、常勤理事の選出方法を大胆に改革しました。教員中心の慣例を打破し、経営プロフェッショナルが常勤理事に就任できるよう、独自の「複線型人事制度」を役員である理事にも適用するわが国初の試みを開始しました。

これまで教育研究活動との兼業が常態化していた理事に対して兼業を禁止し、職務専念を促し、組織運営の強化を図ります。また、任期後の研究現場への復職についても見直し、若手研究者のモチベーション維持と研究のスピード感を重視する姿勢を明確にしました。さらには2028年度（前倒しあり）からは、教員から直接、常勤理事に就任することはできず、「経営のプロである人材：高度専門人材」らが担う制度とします。この改革は、岡山大学長期ビジョン2050の実現に向けた重要な一歩となります。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id15052.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15052.html)

TOPICS  
25

## 工学部「工学系女子のキャリアを考えるシンポジウム」を開催

本学工学部は、岡山大学津島キャンパスの共育共創コモンズ(OUX)で「工学系女子のキャリアを考えるシンポジウム」を開催し、高校生を中心に約60人が参加しました。

工学部卒業生で技術者として活躍する3名を講師として、現在の仕事内容をはじめ、中学・高校時代の過ごし方、大学受験、大学生活、さらには大学卒業後のキャリアについて、それぞれの経験を交えながら紹介し、活発な議論が行われました。

J-PEAKSでも、技術職員の高度化や研究環境の改善、キャリアパスの整備の促進を実施しています。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id14996.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14996.html)



## 岡山大学「研究教授」、「研究准教授」の称号を付与

卓越した研究業績を持つ研究者に「研究教授」、「研究准教授」の称号を付与し、那須学長から認定証が手渡されました。認定者の研究内容は以下のとおりです。

小汐研究教授は、超新星背景ニュートリノの観測、植竹研究教授は「ミュオニウム」を用いた物理現象の探索、内山研究教授は抗菌酵素を活用した動物用抗菌剤開発、狩野研究教授は極性物質におけるバンド構造の存在の解明、清家研究准教授はT細胞の機能調節と抗腫瘍効果の制御メカニズム、大槻研究教授は物質の「非対称性」に着目した物質の導き出し、加来田研究教授はがん予防に向けた新規化合物の開発、諏澤研究准教授は免疫チェックポイント阻害剤の効果向上を目指します。若手研究者らの活躍にご期待ください。



参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id14962.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14962.html)

[https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id14983.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14983.html)

## イチオシの研究設備

【共焦点レーザー走査顕微鏡  
エビデント製 FV4000】

FV4000は、シリコンベースの検出器を搭載した次世代共焦点顕微鏡です。従来機種と比べて超低ノイズ・広ダイナミックレンジ・高い定量性を実現し、微弱蛍光の検出や明暗差の大きなサンプル観察を高精度に行えます。さらにガルバノスキャナとレゾナントスキャナを併用するハイブリッドスキャン方式により、高解像度かつ最大438fpsの高速撮影が可能です。ライブイメージングやカルシウムイメージング、厚みのある試料の3次元構築に優れた能力を発揮します。マルチカラー観察やスペクトルイメージング、タイリング撮影に対応し、AIノイズ除去によって高精細な画像取得も可能です。励起レーザーは405/488/561/594/640nmを



搭載しています。直感的なUIとレーザーパワー調整中心の簡便な操作で効率的に観察でき、基礎から応用研究まで幅広く活用できる強力な顕微観察ツールです。

本機器は、本学の研究設備機器共用システム「コアファシリティポータル(CFPOU)」の以下のURLから詳細を閲覧可能です。

岡山大学J-PEAKSの取り組みとして、大型分析装置等の中国・四国の機器共用ネットワーク拠点の構築や、先端設備の整備、技術人材の高度化等を通じて、イノベーション創出の「知」と「技」のメッカを目指しています。ぜひご活用ください。

## 【管理者】

資源植物科学研究所 松島 良  
総合技術部 高見常明、柏原壺成



本装置や共同利用の設備に関するお問い合わせはこちらまで：[cfp@okayama-u.ac.jp](mailto:cfp@okayama-u.ac.jp)

参考 <https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/equipment/view/1275>